

# 坂井市議会だより



表紙のデザインは、三国高校 美術部・書道部のみなさんによるものです。今回初めて、議会をより身近に感じてもらうため、表紙作成を高校生にお願いしました。

9月定例会

## 主な内容

常任委員会報告	2~4	防災訓練報告	14~15
定例会審議結果	5	広域連合・一部事務組合議会報告	15
補正予算概要	5	決算特別委員会設置	16
一般質問	6~13	12月定例会会期日程のお知らせ	16

ホームページから過去の議会だよりもご覧いただけます。

<http://www.city.fukui-sakai.lg.jp/gikai/>



坂井市

第50号  
2018.11

# 教育民生常任委員会報告

## 主な質疑内容

### 市民福祉部

**問** 公立幼保園・こども園の調理現場での慢性化している人手不足への対応は。

**答** 調理員の募集は、ハローワークに継続して依頼しているが、応募が少ないのが現状である。今後も勤務体系などを工夫して、継続して募集を行っていく。

**問** 一人暮らしの高齢者の安否確認として緊急通知システムが有効であると考えますが、加入状況はどのようになっているのか。

**答** 平成28年度が190名、平成29年度が187名になっていて、一人暮らしの高齢者の加入率は平成29年度で約5.2%となっている。

**問** ゲリラ豪雪が降った場合の高齢者の屋根雪下ろしは、どのように行っていくのか。

**答** 地域ぐるみで高齢者などの住宅の屋根雪下ろしを行った場合、その経費を助成する地域ぐるみ高齢者屋根雪下ろし助成事業を実施しているが、記録的な豪雪にも対応できるよう、制度の中身を検討する必要があると考える。

**問** 妊娠はするものの赤ちゃんが得られない不育症について、市ではどのような認識を持っているのか。

**答** 不妊症と比べると、まだあまり認識はされておらず、検査や治療についても情報が少ないのが現状ではある。今後、不育症で悩む人たちへの相談支援の体制作りが重要であるとする。

### 教育委員会

**問** 2学期制と土曜授業の導入についての教育委員会での見解は。

**答** 本市では、行事の精選など工夫しながら、授業時間を確保し、今後も3学期制を堅持していきたい。また土曜授業を実施する予定は現在のところ無い。

**問** 学校施設における危険ブロック塀の状況、改修対策計画はどのようになっているのか。

**答** 改修が必要と判断した1小学校のプール外周にあるブロック塀については、既決予算にてブロックを撤去し、あわせてフェンス設置を平成30年度内には完成させたい。

**問** 修学旅行、遠足における災害危機管理について、旅行先での災害の備えはどのように行っているのか。

**答** 緊急時の対応マニュアルを作成し、また事故発生時の連絡系統についても生徒たちに周知させ、教員の役割分担も明確にしている。

### 三国病院

**問** 退院後の薬の指導はどのように行っているのか。

**答** 薬剤師が入院患者に対し、退院前に、それぞれの薬の効能や服用方法などの説明を行っている。



▲耐震工事が予定されているハートピア春江の吊り天井内部

# 総務常任委員会報告

## 主な質疑内容

### 総務部

**問** 国の機関などで障がい者雇用の水増しが問題視されているが、坂井市における障がい者雇用の現状は。

**答** 平成29年6月時点で雇用者数が11.5人で法定雇用者数から3.5人少ない状態である。毎年募集を行ってきているが、障がい者の採用試験の申し込みがなかった。また、福井労働局やハローワークなどで指導いただき、今後どういふうに進めるか検討している。

### 総合政策部

**問** 寄附市民参画事業「ふるさと納税大感謝祭」のイベントの詳細は。

**答** 平成30年11月に横浜で開催される、ふるさと納税の寄付者を対象にしたイベントであり、各自治体がブースを設けて宣伝する形となっている。

そこに、坂井市も参加することにより、市の取り組みや返礼品を紹介し、新しい寄付者を募っていききたいと考えている。

**問** イクボス宣言して一年半経っている中で、取り組み内容と成果は。

**答** イクボス宣言をしている市内企業に対しセミナーや勉強会を通じて坂井市が働きやすい、子育てしやすい、介護しやすいなどPRしていくためにも継続して活動していきたい。

毎月19日をイクボスの日として、市長などと若い職員の懇談の機会を設けていることや、有給休暇の取得率が対前年度比より若干上がってきている。

### 財務部

**問** 平成30年の大雪での除排雪費用に係る特別交付税の申請状況は。

**答** 除排雪経費については通常、普通交付税で措置されるが、平成30年2月の大雪については特別交付税でも措置されている。坂井市の除排雪費用は約7億7千万円で、特別交付税で4億1600万円、普通交付税で1億3700万円余り、臨時の国庫交付金などで約89%が国からの措置となっている。

## 陳情

陳情第3号	地方公務員法及び地方自治法の一部改正における新たな一般職非常勤職員の処遇改善と雇用安定に関する意見書採択について	採択
-------	--	----

### 〈主な意見〉

行政サービスの質の確保、臨時・非常勤職員の待遇改善、雇用安定の観点から賛成である。

同一労働同一賃金に向けて職員の処遇・待遇の向上を求める観点から賛成である。

☆発議第6号にて陳情をもとに意見書を提出。  
(P5参照)

陳情第4号	地方財政の充実・強化を求める意見書採択について	採択
-------	-------------------------	----

### 〈主な意見〉

地方創生の観点から地方財政の充実・強化を進めなければならないことからこの意見書は賛同する。

☆発議第7号にて陳情をもとに意見書を提出。  
(P5参照)

# 定例会審議結果

★9月定例会に提出された議案と議決結果 ○…賛成 ×…反対 □…棄権 △…欠席 ー…議長のため原則採決に参加できない

議案番号	件名	議決結果	議席																									
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
議案第38号	三国学校給食センター建設工事（建築）請負契約の締結について	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第39号	三国学校給食センター建設工事（電気）請負契約の締結について	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第40号	三国学校給食センター建設工事（機械）請負契約の締結について	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第41号	財産の取得について	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第42号	財産の取得について	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第43号	平成30年度坂井市一般会計補正予算（第3号）	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第44号	平成30年度坂井市国民健康保険特別会計補正予算（第1号）	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
諮問第2号	人権擁護委員候補者の推薦について	原案採	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
陳情第3号	地方公務員法及び地方自治法の一部改正における新たな一般職非常勤職員の処遇改善と雇用安定に関する意見書採択について	採択	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
陳情第4号	地方財政の充実・強化を求める意見書採択について	採択	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
発議第6号	地方公務員法及び地方自治法の一部改正における新たな一般職非常勤職員の処遇改善と雇用安定に関する意見書の提出について	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
発議第7号	地方財政の充実・強化を求める意見書の提出について	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

## 平成30年度 一般会計9月補正予算概要

補正額 **6億3,071万円** (補正後の額 400億6,257万円)

### 主な事業

◆竹田地区活性化事業 1,000万円  
寄附市民参画事業を活用しながら竹田地区のさらなる活性化を図るための補助金の増額。

◆徴収事務事業 2,950万円  
課税誤りによる還付および法人市民税などの還付件数増による還付金などの計上。

◆私立保育所施設整備補助事業 △1,681万円  
入札に伴う事業費の減額および国庫補助金の増額による市補助金の減額。

◆県単小規模土地改良事業 1,079万円  
県単小規模土地改良事業における事業採択に伴う工事請負費などの増額。

◆災害復旧事業 580万円  
豪雨で被災した土地改良施設に対する災害復旧のための補助金の計上。

◆林道維持管理事業 3,280万円  
大雪による林道法面の土砂災害復旧に要する工事費の増額。

◆企業立地促進事業 4,225万円  
工業振興と雇用機会拡大を目的に、一定規模の工場などを新設・増設した企業や新たな雇用を創出した企業に対して交付する助成金の増額。

◆小学校通学支援事業 680万円  
スクールバス乗車児童の増加などによる運行地区の追加および便数の変更に伴う委託料の増額。

# 産業建設常任委員会報告

## 主な質疑内容

### 産業環境部

問 雪害対策支援事業の今回の制度変更により、当初予定していた支援と内容的にどのように変わったのか。

答 新たに水稻育苗ハウスが支援対象になったこと、また、大雪対応産地緊急支援事業が新設され、手続きが簡単になったことである。

問 まちづくり協議会が鳥獣害対策として補助金で除草機を購入するが、自己負担がある。事業が継続できるような支援を検討したかどうか。

答 まちづくり協議会の事業として実施していくことが適当なのか、他の事業で実施する方が良いのか、今後研究していきたい。

問 「花の駅ゆりの里公園」の看板があるが、現状では花が咲いていないのでは。

答 通年何らかの花を感じられる施設にしなければならぬ認識であるが、7月から9月はユリの球根の育成時期で、そこに花を植えるのは非常に難しいという中で、今後考えていきたい。



▲三国運動公園のカラス

問 三国温泉ゆあぼ〜との施設の不具合について、今後の修繕計画は。

答 建設当初の設備配管では、冷却用チラー（温度を一定に保つための循環装置）の入れ替えを繰り返すことになるので、浴槽の水を冷却用チラーに直接通さないような熱交換器への移行を検討している。

問 カラス被害の対策は。

答 地元農家の強い要請を受けて、有害鳥獣捕獲隊による猟銃捕獲をしている。三国運動公園はカラスのねぐらになっていて、有効な手段がないのが現状であり、今は調査研究中である。

### 建設部

問 新布施田橋について、福井市側は完全に側道を舗装して完成しているのに対し、坂井市側は全く未舗装のまままで開通するのか。

答 旧道から新道に上るところの取付け工事、農道の舗装工事は発注済みと聞いており、早期着工するよう県に強く求めたい。消雪工事は平成30年度中に完了する予定と聞いている。

問 市内の中小河川に水位計を増やす計画はあるのか。

答 水位計は市内9箇所を設置されており、さらに田島川と五味川に簡易水位計の設置を県に要望している。

問 市道の舗装整備状況は。

答 大雪のため修繕費の予算を増やして、道路舗装、柵・カーブミラーなどの施設修繕は概ね完了しているところであるが、今後必要な箇所があれば整備を進めていきたい。

坂井市の防災計画・防災対応のあり方は

問 坂井市では災害時における避難発令をどのように行っていくのか。

答 国の示すガイドラインを参考に、災害の種類ごとに発令基準をマニュアル化し、早めの発令を心がけている。

問 安否確認を迅速に行うためにも不明者の公表は行っていくのか。

答 公表を行えば、円滑な救助や捜索にもつながるが、公表を望まない人もいることを考慮し、公表を行うかどうか、慎重に協議し検討していく。

問 災害時に発生する災害ごみ処理の長期化は被災者の生活再建の大きな妨げとなりにかねないが、災害ごみへの対応はどのように行うのか。

答 本市では、廃棄物防災処理計画を策定しているが、災害ごみの集積場所、処理方法、具体的な事項は示されていない。

問 今後は、専門的知見を有する機関の協力も得ながら、災害ごみ処理の具体的な対応について検討していく。



渡辺 竜彦

問 避難所の受け入れ体制を含めた運営マニュアルはどのようなものになっているのか。

答 ひな型となるマニュアルを示し、防災訓練に合わせ整備の促進に取り組んでいるが、一部の避難所のみ作成に留まっているので、まち協、区長会などと連携し、マニュアルの整備、見直しを図っていく。

問 災害時の高齢者および要支援者の避難対策は。

答 災害時要援護者支援制度の推進に取り組んでいるが、地域支援者の協力が必要不可欠であることから、地域、地域の理解を深め、制度の充実を図っていく。



▲嶺北消防組合消防総合訓練における防災訓練の様子

定年制延長の考えは

問 定年制延長に伴う現況の所見は。

答 60歳を超える職員的能力・経験の活用と、年金受給までの接続を目的に、定年を65歳まで段階的に引き上げる必要があるとの意見が人事院から出された。

問 国の動向を注視し適正な人事管理を図っていく。

問 市の再雇用の現況と課題は。

答 平成30年度に再任用した職員は41名。課題は希望者のみ任用を行うことから、年によって人数の多寡があり計画的な任用や配置がしづらいことである。

問 定年を迎えた市民の技能や知識を市政に生かす方策として、防災やICT推進チームを立てては。

答 市民が長年務めた経験を市に生かすことは重要であり、防災など時代に応じた政策は市民と一緒に考えて行くことが大事である。

問 公募により特技、技能、有識者を広く集め、施策に生かしていきたい。

問 市主導による企業向け人材バンクの登録・斡旋で再就職効率化を図ってはいかがか。



▲公益社団法人坂井市シルバー人材センター(春江町随応寺)



山田 秀樹

問 関係する法令との整合性や事業効果の検証のあり方、個人情報に係るセキュリティ問題など、事業化を図るためには十分な調査検討が必要である。

問 経験が生かされる仕事は希薄だと聞いているが。

答 労働省との意見交換、情報交換を密にし企業の支援など展開を図る。

問 総合行政システムダウンのようなトラブルを未然に防ぐため、専門知識が豊富な定年者の起用も効果的と考えるが。

答 今後そういったところに結び付けることも考えたい。

音楽における人とロボットの共生と科学技術

問 児童減少により、クラブ活動やサークル活動ができない場合がないか。

答 また、市内19小学校に鼓笛隊など演奏できるクラブはあるのか。

答 現在19小学校の内、合奏や合唱など音楽を学ぶクラブは9校に設置されており、入学式や卒業式などの式典で演奏する学校が6校ある。

問 市産業フェアに出展されていた福井大学先端マテリアル創造ものづくり研究室が開発した「MUSICROBOT」を活用することにより、少人数の児童でもロボットの生演奏と共に、合奏が楽しめるチャンスを得ることができないか。

答 近い将来、人とコンピューターの共生は必要不可欠になると考えるが、子供たちにとって限られた人数の中で、自分たちで考え工夫することも大切である。

問 今後はロボットや最先端技術に興味や関心を持つ児童が少しでも増えるよう研究を進めたい。



▲福井大学先端マテリアル創造ものづくり研究室「MUSICROBOT」



南川 直人

防災インフラの重要性と避難指示

問 本市のハザードマップ上での土石流特別警戒区域は、砂防ダムなどの、減災を目指したハード整備により災害リスクを減少できるものなのか。

答 被害の軽減に一定の効果があると認識しているが、ハード面の対策だけでは被害を防ぐことは難しく、過信しないことが重要である。

ICTを活用したまちづくりのためにマイナンバーカードの活用を

問 坂井市のマイナンバーカードの普及率は。

答 全国で11・60%、福井県で7・77%、本市においては8・06%である。

問 マイナンバーカードは本市として活用は何ができるのか。

答 市役所の窓口に向くことなく全国のコンビニエンスストアで各種証明書の交付を受けることができる。

問 また、政府が運営するオンラインサービスのマイナポータルで、子育てワンストップサービスを受けることができる。

問 市として今後どのようなサービスを展開していくのか。

答 マイナンバーカードの普及の状況を見極めながら、先進自治体の取り組みや費用対効果を含めて有効な市民サービスについて検討していく。

問 群馬県前橋市のようにマイナンバーカード



後藤 寿和

を普及させるためにも、サービス展開や可能性の広がりについての考えは。

答 市独自の、カードを使ったこういうメリットがあるということ市内外に知らせることが本市のイメージアップになり、全国にアピールする一つの機会とされている。

問 マイナンバーカードを利用したメリットを研究しているところである。

答 市民に対してのメリットというものに創意工夫しながら取り組んでいくべきと思っている。



▲市におけるマイナンバーカード周知のチラシ

今後の地域包括ケアシステムの取り組み

**問** 各地区で\*フレイルチェックを実施しているが、チェック後どのように取り組むのか。

**答** 気になる高齢者については、その身体状況に応じて地域包括支援センターにつなげるなど、関係機関との連携を図っていきたい。

**問** フレイルチェックで気になる高齢者のために、介護認定者を増やさないための推進員配置はできないか。

**答** 推進員のほか保健師もおり、しかるべき対応を取っていきたい。

**問** 平成30年度から実施される保険者機能強化推進事業は、坂井地区広域連合とどのように連携するのか。

**答** 高齢者の自立支援、重度化防止に向けて、介護の保険者である坂井地区広域連合と十分な連携と情報共有を行い、それぞれの役割を果たしていきたい。

**問** この事業の中で、コミュニティデータを作成し、地域づくりの支援対策を整備することになっているが、誰がコーディネートするのか。



戸板 進

**答** 地域共生社会の実現のため、具体的にとり上げられていくかが課題だと考え、今後検討していく。

**問** 今後の地域包括ケアシステム強化のため、市は組織的にどう取り組むのか。

**答** 基幹型地域包括支援センターを中心に、地区包括支援センターへの助言、指導を行いながら情報の共有と連携を図り、事業を実施している。



▲フレイルチェックの様子

\*フレイルチェック…高齢者の日常生活全般の健康度を測定する。

庁舎建設を遅らせては

**問** 新幹線工事で建設資材や人件費が大きく値上がりしている。

**答** 庁舎建設を延期してはどうか。

**問** 市民の安全安心な暮らしを守る庁舎として、災害時に市の中核機能が担える庁舎を早期に完成させたい。

**答** 消費税引き上げの時期も考慮し、計画通り進めたい。

環境問題の取り組みは

**問** 地球温暖化を含めた環境意識の向上に向けた取り組みは。

**答** 県の地球温暖化防止活動推進委員と連携して出前授業を各学校で行っている。

**問** エコサポーター養成に向けた取り組みは。

**答** 平成29年度よりエコアクションさかい活動事業として、地域に根差した環境活動を行う団体の支援を行っている。

**問** 中国が平成29年末より資源廃棄物の輸入を禁止している。

**答** 市の環境行政での影響と対策は。



川畑 孝治

処分費が発生する可能性がある。今後は、ごみの減量化や3R活動の啓発に努めたい。

三国サンセットビーチの拡大を

**問** 三国サンセットビーチの砂が年々波と風で押し上げられ、砂浜が狭く高くなっており、浜崖はまがけとなっている。

**答** 浜崖を解消し以前のような広い砂浜に戻すべきでは。

**問** 自然現象に逆らう取り組みは限がなく、福井港湾事務所と連携協力しながら、地元の関係機関と砂浜の最善のあり方について対策を講じたい。



▲狭くなった三国サンセットビーチ

\*3R…リデュース(Reduce)、リユース(Reuse)、リサイクル(Recycle)の3つのRの総称。

高齢者が利用しやすいコミュニティバスの運行を

**問** 運行形態やルートを変更する考えは。

**答** 市民生活の移動手段として確実に定着しており、大幅な変更を行う時期でないと考えている。

**問** バスを利用しない人の意見を反映させる施策を講じるべきでは。

**答** 高齢化社会が進展している中、バスを利用してもらう施策を考え、利用しやすいコミュニティバスを目指したい。

**問** 高齢者の運転免許証返納者の配偶者もバス料金を無料にしては。

**答** 配偶者の無料範囲拡大については、検討したい。

**問** デマンドバスの要望があるが市の考えは。

**答** 総合的にメリットよりデメリットが多く、今のコミュニティバスに一人でも多く利用できるようにするのが市の方針である。

産前・産後ケアの実施を

**問** 産前・産後ケアをどう考えているのか。

**答** 母子に対する心身のケアなど、



佐藤 寛治

産前・産後ケアは大変重要な施策と考えている。

**問** 産前・産後ケア事業の実施は。

**答** 平成32年度末までに子育て世代包括支援センターを設置し、特性に応じた妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援を提供したい。

**問** 市内の産科医師は産後2週間からのケアが必要と言っていたが、これについてどう思うか。

**答** 産後1カ月以内の助産師訪問事業を始めたところであり、今後十分検討し切れ目のない支援につなげたい。



▲産後2週間相談の様子

冬季防災訓練を

**問** 災害に強いまちづくりのため、冬季に防災訓練を実施し、市民の冬季における防災対策の意識を高め、市・県・防災関連機関が連携することに、自助・共助による地域防災力の向上を図ってはどうか。

**答** 実際に冬季の訓練をした場合には路面の凍結や圧雪など危険性も高い。

**問** 降雪状況によっては行政機関や市民が住宅の除雪に追われることも予測される。

**答** 市民生活に影響の出やすい冬季については、今のところ考えていない。

**問** しかしながら冬の災害に備えることは重要であるため、今後、職員を対象とした図上訓練などを検討したい。

**答** 冬季防災訓練において、ライフラインが途絶した想定で宿泊体験を実施してはどうか。

**問** 災害が発生した場合の避難所生活を疑似体験するという点では非常に意義深い。

**答** 一方、大規模災害が発生した場合、避難所生活が長期化すること



三宅小百合

が予想される。

長期化する避難所生活を想定した上で、被災した市民が健康でストレスを抱えず避難所生活を送ることに重点を置き、現在、避難所運営マニュアルの整備に取り組んでいる。

宿泊体験型の防災訓練について、今後の課題として検討を進めていく。



▲帯広市冬季防災訓練 宿泊体験の様子

高校生の郷土愛の醸成

**問** 地元の高校に対する取り組み内容とその成果は。

**答** 高校生が地元企業に関する映像を作成したり、魅力ある企業への親子ツアー、各高校との連携による企業・行政とのワークショップやライブデザインセミナーを実施したりしている。

将来、市内に住み続けたい高校生の割合が、平成27年度の38%から平成29年度には56%に上昇し、手ごたえを感じている。

**問** 「あわら坂井ふるさと創造推進協議会」の今後の展望は。

**答** 構成団体の金融機関、ハローワーク、高校、PTAだけでなく、地域企業の支援を受けながら、SNSを活用した企業の魅力を拡散する事業の継続および、若手社員や専門技術者の授業や商品共同開発、スカイプを活用した海外事業所との意見交換などを取り入れている。

**問** 地元高校への進学率向上を。

**答** 市内の高校はそれぞれ特色があり、魅力的で素晴らしい教育機関である。小中学校のころから地元の高校



前川 徹

の魅力への気付きを促すことが重要で、小中学校と高校との連携強化を図りながら、地域全体で取り組んでいかなければならない。

**問** 地元出身者が多く通う坂井・あ

わら地区の高校が文化施設や体育施設を使用する場合に、自治体同士が連携して共通の減免措置を行う仕組みを作ってはどうか。

**答** 教育関係施設の減免について坂井市では、その使用目的、内容に応じて減免措置をとっている。



▲全国高校生そば打ち選手権大会(東京)で3年連続敢闘賞を受賞した丸岡高校。地元そばの魅力を全国に発信。

※スカイプ(Skype)…インターネット回線を使った無料通話ソフトで、世界中の人と会話ができる。

坂井市の防災対策は

**問** 先日防災訓練があったが、市民からの声は。

**答** 訓練の大切さを実感したとの声が寄せられた一方、一時避難の重要性が分からないとの意見もあった。

今後も訓練の重要性などについて一層周知を図っていく。

**問** 防災対策の一環としてドローンは必要だと考えるが、市所有は何かあるか。

**答** 現在、市所有のドローンは無い。ドローンは災害時の状況確認や行方不明者の捜索などに利用されており、市としては所有する業者との災害協定など、導入について検討している。

**問** 防災訓練時に簡易トイレの紹介があったが、地域ごとに設置をアピールするべきではないか。

**答** 簡易トイレがある備蓄倉庫の設置箇所は市民に広く知れわたっているとは言えないため、今後は防災訓練などで周知していきたい。

**問** 防災グッズの有無のアンケートを毎年取ってはどうか。

**答** 防災意識の向上には非常に有効であると考えているが、手法や費



近藤 哲行

用対効果などを考慮し実施する必要があるため、今後も防災訓練などで防災グッズの必要性を訴えていきたい。

**問** 市民に危機意識を持つてもらうために、防災訓練の回数を増やしてはどうか。

**答** 市主催の防災訓練のほか、地域が主体的に行う訓練もある中で、市民から忙しい時期での実施に対する批判なども聞いており、市としては各地区順番に実施している状況である。



▲大雨時の竹田川下流

幼児教育・保育無償化に伴い、自治体として何をやるべきか

**問** 平成31年10月からの無償化に伴い、予算を組む段階で、さまざまなことを想定し、対策を考えておくことが大事であるが、待機児童が増える可能性はないか。

**答** 入園するには、就労などの保育を必要とする事由によるので、大幅に増えることはない。

**問** 途中入園できない児童は、事実上待機児童になり、無償化という点では矛盾が生じるのでは。

**答** 規定上は待機児童にならないが、途中入園については担当課に相談してほしい。

**問** 預かり保育や延長保育が増えた場合、保育士不足はさらに深刻になるが、非正規職員などの処遇改善や正規職員の比率の引き上げが必要では。

**答** 「坂井市保育士バンク」を平成30年6月に設置し、保育士の確保に努めている。退職者数を上回る採用を行いなから正規職員の比率の改善を図っている。

**問** 今後、非正規職員の退職金手当の支給が必要では。



▲園児たちの給食の様子(今福保育園)



畑野麻美子

計年度任用職員となっており、退職手当などの支給についても明記されている。

**問** 保育料無償化後の、給食費の実費支払いにより、負担が増えるのでは。

**答** 現在、国で食糧費の取り扱いの方向性を検討している。

**問** 財源について、公定価格における市負担分はどうなるのか。

**答** 無償化に伴う費用負担がどのような枠組みになるか、極めて大きな問題であるため、平成30年7月に国の責任で必要な地方財源を確保するよう要望した。

ごみの減量と循環型社会の形成

**問** 生ごみの有効利用促進は。

**答** 効果的な処理方法を研究、検討していきたい。

まずは各家庭での手軽な堆肥づくりや使い切り・食べきり運動を推奨していきたい。

**問** 紙おむつ回収の考えは。

**答** 国や県に要望すると同時に有効手段ができれば、リサイクル回収に着手したいと考えている。

観光を中期的な視点で市の発展、地域力の向上にできないか

**問** 観光ネットワークづくりと人材育成をどのように考えているか。

**答** 人材育成は重要な課題の一つである。

すべての旅行者が快適に観光を満喫できる広域的な環境を整え、広く観光客呼び込み、交流人口の拡大を図るとともに地域経済の活性化に努めていきたい。

**問** ふるさと学習の充実は。

**答** 地区探検、ウォークラリーを行って地域や歴史を学んでいる。

**問** 中学校に観光部会を設置してはどうか。



田中千賀子

**答** 難しい面もあるがリーダーシップをとってくれる先生を中心に輪が広がっていくとよいと思う。

**問** 空き家バンクを活用し、クリエイターや芸術家、学芸員などが共同で働けるところを整備できないか。

**答** クリエイターや芸術家の誘致は空き家活用の有効な手段として興味深い取り組みなので、今後地域と連携して調査研究していきたい。



▲エコドームでの分別収集の様子(岐阜県輪之内町)

在来線に特急の存続を

**問** 国土交通省は、フリーゲージトレイン(FGT)の導入を断念した。乗客に不便となる新幹線延伸であってはならない。

**答** ①FGT導入断念を市長はどう受け止めるか。  
②新幹線延伸後も、特急存続を関係機関に働きかけ、市民の利益を守るべきでは。  
③残念に感じている。  
④特急継続は一つの手段。  
並行在来線対策協議会の中で、議論を深めたい。

国民健康保険税改定に伴う影響

**問** ①国保会計は、予算編成時の見込みどおりか。  
②平成29年度決算で黒字化された要因は何か。  
③国保税収は2千万円上回り、県への納付金は1千8百万円下回った。

**答** ①医療費の総額が抑えられたことによる。

ユニバーサルデザインの促進を

**問** 市は、新庁舎の建設で、市民が利用しやすい\*ユニバーサルデザイン

イン(UD)の導入を基本としている。

**答** ①取り組んでいきたい。  
②鉄道施設のバリアフリー化を進めることになっているが、エレベーターの設置は、JRの設置基準を下回り困難。  
③整備計画はあった方がなおいいが、なくても取り組む。  
UDということで議会フロアの改修に2億5千万円かかるが、どのように考えているのか。

**問** 議会の意見を尊重している。



▲工事が進む北陸新幹線(福井市境界地点)

\*ユニバーサルデザイン…年齢や障害の有無、国籍に関わらず、全ての人にわかりやすいデザイン



松本 朗



辻 人志

砂場遊びで子どもの創造力育成を

**問** 市内の幼稚園やこども園などにおける砂場遊びの現状は。

**答** 子どもの創造力や集中力を高める遊びとして、砂場で普段の生活では感じることでできない砂の質感を感じながら、砂場遊びに取り組んでいる。

**問** 砂場遊びだけにとどまらず、園庭の土に水をかけて、泥んこ遊びや泥団子づくりをするなどして、子どもたちの自由な発想で砂や土の感触を楽しみながら遊んでいる。

**答** 砂場の定期的な清掃や砂の入れ替えなどを行っているか。  
**答** 幼稚園やこども園の砂場については、業者による清掃を年一回実施しており、定期的な砂の入れ替えを行うことにより、安全で安心して砂場遊びができるよう環境面での維持管理に努めている。

県道芦原丸岡線を三国まで延伸を

**問** 北陸新幹線の芦原温泉駅開業を見据え、地区住民の交通利便性の向上や交流人口の拡大、災害に強い交通体系の確保などのため、平



▲芦原街道まで延伸した県道芦原丸岡線

**問** 旧三国町時代から関係地域住民や三国土木事務所などの機関とも協議を重ねながら検討してきたものの最終決定していないのが現状である。

**答** 今後、社会情勢やまちの将来像の変化を踏まえ、広域のかつ地域の観点から検証を行い、既存道路の有効活用などを含めて、県に働きかけながら延伸に向けて努力したい。

みんなで森林育成を

**問** 森林環境譲与税が平成31年度から始まる。

**答** 森林の現状分析や関係者との話し合いなどで、用途を決めていかなければならないと思うが、取り組みを伺う。  
県が中心となって、近隣市町や森林組合などの関係者間で協議している。  
財源を最大限活用できるように検討する。

**問** 公共建築物などに、木材利用の促進を図るべきと思うが。

**答** これまでも建築の際に、多くの施設で木材利用で整備している。今後、将来の建設計画を見据えながら、木材の活用ができるような基金化も含め検討する。

前向きな人生を(がん患者支援)

**問** がん患者社会参加応援事業として、医療用ウィッグ、胸部補整具などの購入費の助成に取り組んでほしい。

**答** 福井県が平成30年度より、がん患者アピアランスサポート事業として、ウィッグや補整具などの購

入費用助成を始めた。市の助成を上乗せすることについて、状況を見ながら検討する。

市民の命を守る

**問** 高齢者肺炎球菌ワクチンの接種者数と接種率は。

**答** 平成29年度は対象者数5853人、接種者数2280人、接種率39%である。

**問** 接種を忘れた人に救済措置を。

**答** 平成31年度から65歳のみを対象としており、市独自の救済措置は考えていない。



▲坂井市の美しい山並み風景



永井 純一

地域力を生かした学習支援の構築を

**問** 市が行っている就学援助世帯、ひとり親家庭の学習支援の現状および課題は。

**答** 市が行っている就学援助世帯、ひとり親家庭の学習支援は県の事業を引き継いでいるが、共通の課題として講師の確保が必要である。

**問** 対象児童生徒の拡充、実施地域の拡大、学校や地域の連携体制を構築する必要がある。

**答** 市内中学生の高校への進学率は、平成30年度は卒業生846人に對して83.9人で、進学率は99.2%であり、県内の進学率とほぼ同じである。

**問** 国は地域力を生かした学習支援である「地域未来塾」を平成31年度までに全国で5000中学校区に展開する目標を掲げている。

**答** 市として、地域未来塾による学習支援事業を今後展開していく考えはあるのか。  
地域未来塾とは、家庭や経済的な事情により、学習が困難な中高生を対象に原則無料の学習支援で、国、県、市が3分の1ずつ負



▲市内で行われている学習支援の様子



川端 精治

担する補助事業である。しかし、現在、福井県内で実施している自治体がないため、県との調整を含め、実施の要件や課題について検討していきたい。また、市民福祉部が現在行っている学習支援事業とさらなる連携を図り、講師の確保、対象児童・生徒の拡大も含め、地域と学校の連携・協働体制の構築に向けた支援を行っていく。

「天災は忘れたころにやってくる」この言葉を残した寺田寅彦は大正12年(1923年)45歳の時、関東大震災に遭遇しており、物理学者としての業績のほか、防災学者としても地震、台風、火山などの被災地を調査し、防災、減災の重要性を警句として私たちに残しています。

また、日本の国土面積は世界の0.25%しかありませんが、マグニチュード6以上の地震の約2割が日本列島周辺で発生しており、加えて世界屈指の豪雪大国でもあります。

近年多発する「自然災害」にどう備えるのか、初動の重要性、災害対応の基本、避難勧告・指示など、これらを目的として市内で実施された次の防災訓練を紹介します。

## 市議会BCPに基づく訓練

平成30年8月19日、市防災訓練に合わせ、議会※1 BCPに基づき議会防災訓練を実施しました。

午前8時30分緊急地震速報(訓練)の放送と共に防災メールを受け、各議員が議会事務局に議員自身と家族

の安否の報告と、地域の現状の報告を行いました。

議長、副議長は議会事務局に詰め、状況の把握に努めました。

今後は、議会災害対策会議の設置や、市本部との連絡・連携体制、備蓄品の確保などについて、BCPに基づき議員が、機動的な活動が図られるよう検討が必要であると感じました。



▲市議会BCPに基づく訓練の様子

※1 BCP…業務継続計画

## 福井港緊急支援助物資輸送等訓練

平成30年9月2日、福井港北埠頭において実施されました。

### 訓練の目的

特定地域振興重要港湾(日本において地域振興のため重要な役割を果たすことが期待される港湾)福井港での災害対応に備えるため大型「浚渫兼油回収船「白山」による油回収訓練や緊急支援助物資輸送訓練など、地震による津波災害を想定した防災訓練。

### 災害想定

若狭海丘列付近断層でマグニチュード7.63の地震が発生し、三国町米ヶ崎、崎付近で高さ8.68mの津波が発生。この津波により沖合を航行中のタンカーが転覆し、海上に重油が流出。重油は福井港沿岸に漂着する恐れあり。埠頭など港内に瓦礫が錯乱し、湾岸施設が被災。また、地震により道路が寸断し、沿岸部に孤立集落あり。

### 訓練内容

- ・「白山」により流出した重油を回収する。
- ・支援助物資輸送路確保のため放置車両の撤去を行う。
- ・貨物船から落水した乗員を水陸両

側から救助する。巡視艇「あさぎり」により災害により孤立した沿岸住民を輸送する。

「白山」が運搬した支援助物資を、人力及びクレーンにより荷下ろしし輸送車両に積み込む。また、「白山」の給水タンクから市の給水車へ飲料水の供給を行う。



▲福井港緊急支援助物資輸送等訓練の様子

※2 浚渫…水底をさらって土砂などを取り除くこと

美しい海を守る「白山」って、どんな船？

「白山」は最新機器を搭載し、高度に自動化された最新鋭の船で



## 嶺北消防組合消防総合訓練

平成30年8月5日、嶺北消防組合消防総合訓練が行われました。

### 災害想定

午前6時45分、日本海沿岸を震源とする震度6強の地震が発生し、大津波警報が発令。一帯の建物が倒壊し、建物内に住民が取り残された。また、大型バスを含む多重衝突事故が発生し、多数の負傷者が発生。さらに屋上で負傷した職員が助けを求めている。また、地震の影響により河川の堤防に亀裂が発生し漏水するなど、被害状況が甚大である。



▲嶺北消防組合消防総合訓練の様子

### 訓練内容

車両部隊58隊、航空部隊1隊、医療部隊1隊、地区市民200名の約1000名が訓練に参加。部隊集結訓練、現場指揮運用訓練、区民避難訓練、倒壊家屋救出訓練、水防活動訓練、交通救助訓練、応急救護所設営訓練、高所救出訓練、火災防衛訓練、防災ヘリ連携訓練などが行われた。

### 所見

嶺北消防組合と関係機関、地区市民約1000人が参加した訓練に身が引き締まりました。

## 広域連合・一部事務組合議会報告

### 嶺北消防組合

坂井市とあわら市で構成。

#### ■平成30年7月:第3回臨時会

- 平成30年度一般会計補正予算 可決
- 化学消防ポンプ車の取得について 可決
- 大型化学高所放水車の取得について 可決
- 平成29年度一般会計継続費精算報告について 受理

### 福井坂井地区広域市町村圏事務組合

坂井市・福井市・あわら市・永平寺町で構成。主に清掃センター、YONETSU-KANささおかの運営、電子計算組織(福井市を除く)の共同利用を行う。

#### ■平成30年7月:第172回定例会

- 平成30年度一般会計補正予算 可決

### 越前三国競艇企業団

坂井市と越前市で構成。競艇事業の運営を行う。

#### ■平成30年8月:第3回定例会

- 平成29年度モーターボート競走事業会計未処分利益剰余金の処分について 可決
- 平成29年度モーターボート競走事業会計決算の認定について 認定
- 監査委員の選任について 同意
- 平成29年度モーターボート競走事業会計継続費精算報告書の報告について 受理
- 平成29年度資金不足比率の報告について 受理



# 決算特別委員会を設置

委員会では、予算が適正かつ効率的に執行されたかどうかや今後の行財政運営においてどのような改善工夫がなされるべきかなどに着眼し、「平成29年度坂井市一般会計」他6会計の決算審査を行いました。

**【委員長】** 辻 人志 **【副委員長】** 川端 精治  
 渡辺 竜彦 南川 直人 戸板 進  
 古屋 信二 佐藤 寛治 東野 栄治  
 川畑 孝治 永井 純一 畑野麻美子  
 田中千賀子



▲ 決算特別委員会の様子

※審査結果は次号でお知らせします。

## 決算特別委員会審査日程

回	月 日	審査区分
第1回	8月31日(金)	設 置
第2回	10月19日(金)	所管審査
第3回	22日(月)	所管審査
第4回	23日(火)	所管審査
第5回	11月2日(金)	意見整理
第6回	5日(月)	意見整理
第7回	9日(金)	意見整理
第8回	16日(金)	講 評

## 議会を傍聴してみませんか

### ★12月定例会会期日程（予定）

11月30日(金) 10時～ 本会議(行政報告・議案説明など)

12月14日(金) 10時～ 教育民生常任委員会

12月10日(月) 10時～ 本会議(一般質問)  
11日(火)

17日(月) 10時～ 総務常任委員会

13日(木) 10時～ 産業建設常任委員会

21日(金) 10時～ 本会議(委員長報告・採決など)

※ 日程は、変更になる場合がありますので、あらかじめご了承ください。



### 編集後記

今年の夏は記録的な暑さの猛暑続きの夏となりました。また、2月の37年ぶりの豪雪、6月の大阪北部地震、7月の西日本豪雨、9月の北海道胆振東部地震：そして台風21号と、今年は非常に災害の多い年だったのではないでしょうか。

司馬遼太郎が書いた「播磨灘物語」の中の一節に、私が大好きな戦国時代の軍師である黒田官兵衛が「人間の利口などたかが知れたものだ」といった件がありますが、我々人間はいくら万物の霊長であると自負していても、こういった大自然が生み出す震災・災害の前では人間の無力さを痛感させられます。

しかし、無力なれども、我々は前をしっかりと向いて明日へと進んでいかなければなりません。

今後も市民の皆さんと共に、議会も安心・安全なまちづくりに取り組んでいく所存です。変わらぬご愛読のほどよろしく申し上げます。

(渡辺)

※問い合わせや議会だよりに対するご意見がありましたら、左記の議会事務局連絡先までご連絡ください。